ザックJAPAN サンパ

鹿　島 3 {2-0 / 1-2} 2 サンパウロ

＜スルガ銀行チャンピオンシップ2013＞
7日　19時02分　カシマ　晴
▽観衆26,202▽主審＝バシール
＜得点経過＞
前半24分【鹿】大迫㊨（柴崎↑）
前半39分【鹿】大迫㊨（ジュニーニョ↑）
後半13分【サ】ガンソ㊨
後半30分【サ】アロイージオ㊨（ガンソ→）
後半47分【鹿】大迫㊤
＜警告＞【鹿】小笠原、岩政
【サ】シウビーニョ

Ⓢ鹿島	位置	サンパウロⓈ
0 曽ケ端 準	GK	ロジェリオ・セニ 0
0 西 大伍	DF	ドゥグラス 0
1 青木 剛	DF	ルーカス・シウバ 1
1 山村 和也	DF	エジソン・シウバ 0
0 前野 貴徳	DF	レイナウド 0
0 小笠原満男	MF	ウェリントン 0
1 柴崎 岳	MF	ロドリゴ・カイオ 1
3 遠藤 康	MF	マイコ 1
0 土居 聖真	MF	ガンソ 1
2 ジュニーニョ	FW	アデミウソン 1
6 大迫 勇也	FW	アロイージオ 3

0 野沢 拓也		シウビーニョ 5
後12←土居		後1←アデミウソン
0 中村 充孝		ルーカス・エバンドリスタ 0
後23←遠藤	交代	後1←マイコン
0 中田 浩二		ロニ 0
後33←前野		後28←ルーカス・シウバ
0 岩政 大樹		
後40←青木		
0 梅鉢 貴秀		
後40←ジュニーニョ		

計	後	前		前	後	計
13	4	9		5	9	14
13	9	4	シュート	7	4	11
1	1	0	G K	7	2	5
6	4	2	直接FK	8	10	18
4	2	2	間接FK	2	0	2
1	1	0	P K	0	0	0

＜鹿島・サンパウロ＞㊨㊦前半24分、先制ゴールを決め喜ぶ大迫　㊨前半39分、インサイドボレーで2点目（撮影・西尾大助）　㊤連覇を達成し歓喜の鹿島イレブン

柴崎Ｖ弾演出

○…柴崎が決勝弾を演出した。後半ロスタイムにこぼれ球を拾い、右足でミドルシュート。豪快な一撃が相手DF、大迫に当たりネットを揺らした。一度は自身のゴールとアナウンスされ、訂正は試合後のヒーローインタビューを受けた直後。殊勲弾は大迫に譲ったが、ミスの少ないつなぎや積極的な飛び出しで勝利に貢献した。21歳のボランチにとって、ブラジルの名門との真剣勝負は貴重な経験。「サンパウロは個々の技術が高く、フィジカルも強かった」と振り返った。

金子達仁の育成シンポ

ユースのマナー向上 あとは起爆剤待ち

先週末、日本クラブユース選手権の準決勝、決勝があったので、ちょっとのぞきに行ってきた。エスパルスのFW北川、ガンバのMF井手口、サンフレッチェのMF野口、そして優勝したマリノスのDF福田、尾身、MF早坂、田崎……名前を挙げていったらキリがないぐらい、楽しみな選手がたくさんいた。

だが、何よりも驚かされたのは、大会のパンフレットだった。出場24チームの自己紹介的な文章が掲載されているのだが、そのほとんどが育成方針として「人格形成」をあげているのである。

挨拶をしない、口の利き方を知らない、話をする時に人の目を見ない――一昔前まで、クラブ育ちの選手にはそんなタイプが珍しくなかった。この子たちはサッカーを辞めたらどうなってしまうのだろうと、本気で心配になったこともある。

それでも、彼らがサッカー選手として大成するのであれば、まだ良かった。問題は、若年層の段階ではその地域でトップクラスの才能だったはずの彼らが、思いの外伸び悩み、最終的には高校や大学を経由した選手に追い抜かれる例が多々あったということである。

サッカーは、コミュニケーション・スポーツである。どれほど大きな才能であっても、周囲に自分の意図を伝えられず、また周囲の意図を自分が読み取れなければ活躍することはできない。ボール扱いに長け、しかし社会性の欠落した選手たちは、ゆえに伸び悩んだのだとわたしは思っている。

ただ、クラブ側の方向修正は素早かった。

パンフレットに書かれたものを見るまでもなく、選手たちがきちんとした社会性を身につけていることは試合からもよくわかった。かつてのように審判を口汚く罵る選手がいない。思い通りに事が運ばなくても、ふてくされたような態度を取る選手がいない。準決勝が終わった直後、すぐに行われた3位の表彰式で、敗れた選手たちが悔しさを露にしながらも、マナーをきちんと守ろうとしている姿勢には強い感銘を受けた。

日本サッカーは、また新たな階段を登ろうとしているのかもしれない。

日本の若年層育成が「金太郎飴」状態になっているのではないか。そんな懸念がわたしにはあったし、いまもある。ただ、準決勝に残った4チームの中には、近年の日本では見た記憶のないタイプの選手が何人かいた。なにかが、確実に変わりつつある。

こうなると、求められるのは起爆剤である。18歳で代表入りを現実のものと考え、かつ、それを達成する選手の出現。ボールを前に運ぶ推進力と、常に上を目指す向上心のある選手の出現と抜擢――。いろいろな夢の広がる、真夏の夜の横浜だった。

（スポーツライター）

◇金子達仁氏オフィシャルウェブサイト◇
http://www.tatsuhitokaneko.jp/

大迫のリーグ戦成績　09年は22試合3得点。10年は27試合4得点。11年は25試合5得点。12年は32試合9得点。今季は鳥栖との開幕戦で先制点を挙げるなど、18試合8得点で得点ランキング10位

☆紙面編集　片貝早輝子